令和８年度　第１回窪田空穂記念館運営委員会　会議概要

１　日時　令和８年５月１４日（木）　１３時３０分～１５時

２　会場　窪田空穂記念館　会議室

３　出席者

⑴　委員側

伊藤政子委員、大澤秀夫委員（委員長）、折井理智子委員、三枝浩樹委員、窪田潔委員（副委員長）、坂口俊樹委員、三ツ井夏月委員　７名

⑵　市側

博物館長　大野正幸、課長補佐（庶務担当係長）柳本真里、事業担当係長　石井佑樹、事業担当　會田美保（担当学芸員）

窪田空穂記念館分館長　栗田正和、神田智代美

４　令和７年度事業報告及び令和８年度事業計画

⑴　人が集う場所に

博物館長から博物館を人が集まり賑わいのある場所にしていきたいと話があったが、コロナ以降人が集まらず、対面でいろんな事が出来なくなってしまった。そして自分と違う人と会い、刺激を受けて何かを始める機会が減った。歌会・茶会なども人が集まらない事には始まらない。

私自身も、引っ越してくるまでは市内に居ながら博物館には来た事がなかった。坂口委員もそのようにおっしゃっており、なかなか博物館は入りにくい。松本城の中にあった古い建物には１６年間で１、２回入ったことがあるが、入口で少しくつろげる空間がなかったので直ぐに出てきてしまった。今回は１階部分が食事も出来るようになっていて、同じ物であっても入りやすく滞留しやすい。また人の出入りがあり、小さな講義室はガラス張りで、何かを開催している様子が見える。そのように様々な工夫で賑わう場所にするということが大切だと思う。そこで、昨年の入館者は１，５２７人の報告であったが、博物館長はどう評価するか。（委員長）

本館としては、中心市街地から離れている部分がどうしてもあると感じる。主要の道路から奥まった所にあるということがネックではないか。私も初めてここに来た時に道に迷う感覚があり、途中に小さな看板はあるが、看板がどうしても少ないような気がするため、ここへの案内は必要。また生家の方も今日初めて見たが、こういった催しの他に何か活用して、人を呼び込めるようなイベントや事業があれば、現状よりは少しでも、入館者増加に繋がるのではないか。１,５００人という数字が少ないか多いのかはわからないが、無償化したけれど入館者数にあまり差がないということは、やはり立地などに原因があるのではないかと感じる。そのため、人が集まる催し

を今より２倍または３倍に増やしたとしても、記念館自体の入館者数が増加するかどうかは、試してみてだがどうなるかというところ。委員長は、もう少し人が来てもらった方がよいと思うか。（館長）

中心部は人の賑わいがあるがここはそうはいかない。そのため館長がここは増やさなければいけないと頑張られてしまうと、逆に分館サイドは少しつらい部分があると感じたための、敢えての質問。「希少性・過疎性」不便だからこそのメリットがある。松本市内から和田に来ると快適で、市内は綺麗だが年寄りにはしんどい部分もあり、こちらの方がよいなと感じる。長野と松本を比べると松本がよいのは、新幹線がないこと。分館が民芸館、四賀化石館もそうだが不便なところにあること。外国人も俺は一人で旅するぞという感じで歩いている方も多いため、私としては人数ではないところで勝負した方がよいのではという思い。（委員長）

松本は新幹線がない。少し遠いことを逆手にとった施策を打つ。それが松本の良いところというイメージを持たせることが大事。外国人が市内も多く、歩いて回る。中心市街地だけでなく、観光でもないところを歩いていて探求心がある。外国の方へ向けてのＳＮＳでの情報発信も必要と感じる。（館長）

⑵　空穂の短歌

空穂の短歌は外国語に翻訳されているか。（委員長）

国際短歌学会というものがあるが、俳句の方が遥かに活動は活発で、空穂の短歌が翻訳されているかは不明。（委員）

東アジア文化都市として、例えば中国には漢詩が、韓国には詩人が何人かいて、日本を含む東アジアと考えたときに、空穂の出番はどこなのだろうと思う。東アジアの詩文学と括ってなにか言えるのだろうかと考えている。（委員長）

東アジア文化都市関連イベントとして、記念館では建築芸術祭、生家でアート展示は計画中。（分館長）

内容的に、短歌とは直接結びついていないのではないか。外国の方が短歌をどのような認識でいるかわからないが、ポピュラーなものか。（館長）

俳句はポピュラー。アメリカでは小中学校の段階で俳句を習っている人も多い。短歌は五七五七七で少し学びづらい。俳句は季語を読み込むなど短歌よりも制約があるが、五七五で自分の想いを表すものということで、かなり取り組みやすく、我々が思っているよりポピュラー。日本でも俳句人口の方が短歌より遥かに多いが、関心を持っているということは事実だと思う。空穂は早くから登山をしており、アルピニストとしては先駆けのような存在。明治時代は合力という、荷物を持ち案内をしてくれる人が必要で、少しお金がないと高い山には登れなかった。空穂は山に関するよい歌もたくさんあるので、一つ呼び込みの案としては、空穂の「山岳詠」にまつわる企画もよいかもしれない。（委員）

博物館長になる前に、移住の関係部署にいた。松本イコール山、山の入口、綺麗な空気と水。そういったイメージで移住される方がとても多かった。松本は山がキーワ

ードになるので、そこをうまく関連させるとよい。ＮＨＫブラタモリで上高地が放映され、その時の案内人の加藤銀次郎氏を招いたイベントを先週行ったが、そこでウエストンに怒られたのが空穂だと、登山をよくしていた方だとも聞いていたため、やはり登山、山と短歌を結び付けたイベントは魅力があると思う。（館長）

近代短歌の歌人の中で、山に登り魅力的な歌をたくさん作った歌人と聞かれるとまず空穂の右に出るものはいない。その特色を企画展の中でやるのは面白い。ウエストンに叱られたというのはどんな話か。（委員）

当時、空穂が上高地の温泉宿に宿泊した際、お酒を飲んで宴会をしていた。ウエストンはゆっくりしたかった。（館長）

たまたま宿で会った彫刻家で詩人の高村光太郎等と盛り上がっていたら、隣室に泊まっていたウエストンに静かにしてくれと注意された。ウエストンの奥さんは具合が悪く寝ていた。（委員長）

空穂は酒が飲めないので、他の方が酒を飲んで声のトーンが上がってしまったか。博物館でメインの企画をやって、そこに空穂をドッキングさせていくのも良い。（委員）

特別展というと難しいが、本館には小さな展示ができるスペースもあるのでそこで「空穂と山岳」というテーマでやるのもよいと思う。（館長）

⑶　子どもたちの短歌への入口

小中学生の短歌への入口はどのように作れるか。先日、幼稚園の外出で時計博物館へ行ったが、その後、園へ帰ってきて自分たちで時計の展覧会というイベントを開催していた。段ボールで時計を作っていて面白かった。何かに触れて、見て帰ってきて「自分たちでもやってみよう」と思うのだということを実感する機会があり、空穂記念館に来たからといってすぐに短歌を始められるとは限らないけれど、子供たちにとって何か入口になるようなきっかけが作れないものか。

どうやったら子どもたちが自分の中でそういう賑わいや、出会いが昇華されていくのか。小中学校は決まったカリキュラムがあるからそういった時間がないのか。幼稚園は自由保育だが、どうにかここ空穂記念館に来たことで内発的なものに転化し、広がることが短歌でできないものか。大学生はかるたや短歌との出会いはどこにあるのか。（委員長）

人にもよるが、長野県は少し弱い。県外や東京だとそもそも競技かるたの文化が根付いていて、かるた会というものがある。競技かるたは１４、１５年前の漫画・アニメの影響で爆発的に広がったが、漫画・アニメが面白かっただけで終わらせず、高校の部活なども一気に増え、比例して大学のサークルなども増えた。興味を持った時にできる環境があったということも大きな要因。知るきっかけ・継続して学べる環境があることがポイントだと思う。短歌講座は年配の方、経験がある方が多いイメージ。（委員）

博物館では現在、「旅展」という特別展をやっているが、関連イベントの吟行体験

に一般参加してきた。吟行は外に出て風景や町の様子を見て短歌をしたため発表する。ほとんどの方が初心者であったが、講師からの講評は自分の想いを理解してくれる喜びがあり、もう一度作ってみようかなと思えた。短歌講座の他に、こういったアプローチも入口にはなるのでは。（学芸員）

和田の人がみな短歌を詠めたらすばらしい。ＡＩに短歌を披露すると、絶賛してくれる。感性が素晴らしいと言ってくれる。まるでカウンセリングを受けているようで、ＡＩが友達や恋人になるのがわかる気がする。要するに歌会も、厳しいことを言われるかもしれないが、受け取ってくれる相手がいるから励ましになる。だからこそ空穂会もこうやってつながっていると思う。言葉を媒介し、励まされ元気が出て、自然や人とのつながりを喜んで歌う里、そういう空間に空穂記念館がなればよいと思う。（委員長）

公民館との連携も昨年は多くさせてもらい、記念館・生家にも関わっていただいたことで、普段来ないような方も良く来てくれた。とにかくどんな些細なことでもつながりを大切に、人をここに引き寄せることが大切だと日頃考えている。（分館長）

空穂記念館をシルバーカフェにするのはどうか。（委員長）

生家の建物も素敵で、カフェも人が集まるので良いと思う。別の角度からの売り込みは、今までと違う方の来館も期待できるため、早めにチャレンジしたい。（館長）

私は散歩道で来て入って空穂記念館の展示を見ると、植村正久という明治の有名な牧師の写真があり、坪内逍遥、与謝野鉄幹を含む三人が恩人と記載があった。私自身が教会の牧師だったこともあり、なぜ植村正久と空穂が関係あるのかと思ったら、２７歳頃にキリスト教の洗礼を受けているということだった。散歩している人が無料で入れて、知れるというのもよいことだと思う。（委員長）

無料にしたのはいいこと、ハードルが下がった。（館長）

県外からの方は無料というとびっくりされることもある。申し訳ないとの話しで、その分本など買ってもらうのも良い。（分館長）

⑷　結びの言葉

ア　子どもの短歌の作品集発行がなくなったが、代替案としてＨＰで閲覧可能など実現できるか。山と空穂の件もここだけで話が終わらず、公民館も協力するので実現したい。空穂の短歌の山の聖地巡りなど、楽しくなければ人は集まらない。なんとか実現したい。（副委員長）

ＨＰは個人情報に抵触するため広く公開は難しい。こちらで入力したデータをそれぞれの学校で活用したい希望などがあれば送りたいと思う。（栗田分館長）

優秀・入賞作品、選評はピックアップで掲載できないのか。選評がつくと対話になるし、励みになるので大切だと感じる。（委員長）

入賞作品は空穂記念館のＨＰなどでアップして紹介することは可能。個人情報につながる氏名等は割愛。昨年の運営委員会で提案があった選評は、作品展でもとても好評だった。（分館長）

イ　今回初めて参加したが、多くの事業を知るよいきっかけになった。各講座や企画の案内やＰＲはどのようにしているか。（委員）

　企画展やこども教室と名前がつくもの、百人一首、囲碁、将棋は学校にチラシ配布している。基本は市の広報とプレスリリースにより周知している。（分館長）

ウ　子ども短歌の作品集発行がなくなり残念。私自身信州大学で働いており空穂記念館を知っている職員というのは保護者世代が多い。自身の子どもが作品を出していた、囲碁教室に行ったことがあるなど。そういったつながりを作ってくれていた媒体がなくなるのは残念。何かしら形としてあればと思う。百人一首教室は学生にとってもよい経験になっているので、ぜひ続けていただきたい。（委員）

エ　子ども短歌作品集は、自分の作品が賞をもらった、掲載されたということがやる気や励みにつながっていた。たまたま作品集が配られた日に、友だちと喧嘩して荒れていた子が、校長室まで作品集を持って見せに来て、自分の作品が載って賞をもらっていると喜んで帰っていったというエピソードもある。担任にとっても上の学年になればある程度毎年のことで慣れてくるが、初めて短歌をつくる２年生あたりに教えるときに、これまで作品集を元に指導していた部分もあったため、小さくてもパンフレットなどがあればいい。（委員）

オ　山岳と空穂の企画の話しがあったが、山の中へ、かご一つ持って行ってするお茶会のお点前もあるので、お手伝いなんかもできるのではと、今から楽しみにしている。（委員）

カ　山岳と空穂の企画は魅力的。記念館でも博物館本館でもやってほしい。山岳の歌に関して、空穂の歌を通して松本平の魅力を伝えたい。空穂のバックボーンの一つは宗教性。植村正久との２０代での出会いで得たものを大切にし、晩年まで思い起こしている歌がある。明治の時代、西洋の思想として有名な文学関係者が流行のようにキリスト教に入っていくということがあったが、北村透谷、島崎藤村、正宗白鳥など、みな根がなく、生涯信仰を持ち続けた文学者はほとんどいない。大岡信の「窪田空穂」という本の中には、大岡が自分自身で空穂とキリスト教の問題が今一つ見えていないし、一般的に課題としてまだ残っているとしている。空穂は晩年、仏教の禅とも深く関わり、鈴木大拙との接触もあった。「宗教について」のエッセイでは、自分にとって宗教はキリスト教と仏教の禅だと書いているが、空穂とキリスト教・空穂と宗教性という魅力的でまだ十分に解明されていないテーマがあるので、それにまつわる企画展もよいと思う。（委員）

キ　企画展について頂いたご意見をもとに資料を調べ、今後お披露目できるようにしていきたい。（学芸員）

ク　いろいろと参考に、會田学芸員と共に考えていきたい。（係長）

ケ　生家の雰囲気はとても良いと思う。生家で行う公民館企画での香道も素敵。カフェの可能性なども楽しみながら考えていけたらよいと思う。（課長補佐）

コ　松本市は三ガク都、山の「岳都」、音楽の「楽都」、学びの「学都」を元に進め

ている事業もあり、山岳と空穂というアイデアもいただいたため、学芸員とも相談し進めていきたい。（館長）

サ　令和７年度事業報告、令和８年度事業計画について、分館長から報告を受けて、運営委員会として承認した。（委員長）

５　運営委員会委員の改選

現在の委員任期は令和９年４月３０日までで来年度は運営委員の改選期。芝沢小学校校長の伊藤委員、和田公民館館長の窪田潔副委員長、松本市校長会会長の坂口委員は、職名委嘱であり、４月１日の人事異動に伴う人選。大澤委員長、大下委員、折井委員、三枝委員、三ツ井委員については、学識経験者、歌壇関係者、市長が必要と認める者として、その人となりへの委嘱。

次期委員の選考方針は、先ず、現在の委員に継続することが可能か否か、確認をさせていただく。可能は場合、これまで同様に、委員をお願いしたい。継続できない場合、例えば所属する団体などで、次期委員として御推薦いただける方がおられれば、御推薦をお願いしたい。（分館長）